

B17a 銀河系外天体におけるアマチュアとプロの連携

山岡 均 (九大理)

銀河系外の天体の観測における天文愛好家と研究者の連携について概観する。銀河系内の天体と同様、変動天体に関する連携活動が主要となっている。

天文愛好家が発見する超新星は、近傍銀河に出現したものが多く、そのフォローアップによって得られる情報は重要なものとなる例が頻繁に見られる。近年、発見の情報から分光までに要する時間が短くなってきており、連携が良好になされつつあると言える。また、測光の比較星が USNO-A2.0 カタログなどを用いて発見後間もなく提供されることで、観測者間のデータの差異が小さくなってきている。今後の展開としては、ニュートリノバーストの報を受けての超新星の検出が期待され、その予行演習が行なわれるなどしている。また、重力波対応天体についても同様の連携が望まれる。また近年、アンドロメダ銀河程度の距離の銀河では、天文愛好家による新星発見も相次いでいる。これらについても超新星と同様の連携が可能であろう。

ガンマ線バーストの閃光・残光の観測においても、天文愛好家の活躍はめざましい。AAVSO や VSNET を通じて、世界各地の観測者が残光の検出に成功している。ヨーロッパ初の天文愛好家による残光検出は、VSNET の共同研究によるものであった。ごく最近のガンマ線バーストにおける連携の成果については、鳥居、植村らの講演で詳細に紹介される予定である。